

多久市交通安全指導員会



▲市民の交通安全を守る指導員のみなさん

市民の交通安全を願って活動中！

多久市交通安全指導員会は、昭和46年4月に多久市の交通安全と交通道徳の高揚を図り交通秩序を確立することを目的として発足しました。

現在の指導員は22人。1年を通じ啓発運動を行っています。制服と制帽、腕章を着け、登校時の児童・生徒へ街頭交通指導、交通安全県民運動期間中の「マナーアップキャンペーン多久」で交通安全を呼びかけています。また、多久まつりや成人祝賀ロードレース大会、都市対抗県内一周駅伝大会などの行事の時にも街頭交通指導を行っています。

会長の藤本昇さんは、指導員歴41年。「4月は新入学児や新入園児の保護のため、登校・登園には特に注意をしています。交通事故ゼロを目指して、指導員全員今後も頑張っていきます」と話し、市民の交通安全を願っています。

問 防災安全課 ☎75-2181

川柳

《多久市川柳会
互選》

学問の英気で茂る廟の森
名も知らぬ花のジューク
今年こそブーケを投げる側に立つ
アソコでき次は走れと急かす靴
走らねばならぬ襷を渡すまで
松下 修

西山 残月
高塚チカ子
井上 東子
猪口昭子

とろとろと眠つてばかり春の風邪
陶椅子へ陽ざしの温み春めける
寝せておけ大試験終ゆ安堵の子
眼鏡橋ランタンゆるる夜寒し
手放せぬ薬の瓶や春寒し

不二見恵美子
森山 抱石
納富 芦風
野田キヌ子
田中久美子

俳句

《楓樹句会
互選》

落葉掃きムカゴ見つけて食すれば
幼き頃の思い出ひろがる
われの脳壊れものかと思うほど
役にはたたずこの腑甲斐なさ
自由気儘な親子の旅に味しめて
近い所に又行こうねと
嘆かんか居直るべきか足早に
迫り来る老い避けるすべなし
夜明けかと紛う月明に覚め仰ぐ
いざこへ行くか雲の流るる
浦野 嘉恵

梶原恵美子
福島那智子
本田 静香
川浪 信子

短歌

《麦の芽短歌会
互選》

市民文芸

●連載24●郷土資料館で学ぶ多久の歴史

文武両道～東原庠舎でのまなび～

東原庠舎では儒学の勉強が最も重視されていたのですが、同じくらい重要なとされていたのが武道でした。乗馬や弓術、鎧術、剣術のほか、「捕手」と呼ばれる多久古来の武術も盛んに行われていました。捕手には夢想賢心流など10の流派があり、主に足軽・歩行など下級武士たちが稽古していました。

生徒たちには文武ともに励むことが求められ、25歳までに学科・武道どちらかが一定のレベルに達しないと家督を継げないなど、厳しい規則が設けられていた時期もありました。また、領主は2年に1回、東原庠舎に来て、講義や武道の稽古を視察していました。

一方で、一所懸命励んだ生徒には褒賞が与えられました。このような教育が文武を貴ぶ気質・学風を生み、多くの人材を輩出したのです。



▲「夢想賢心流免許皆伝」に描かれた技

多久市郷土資料館・歴史民俗資料館・先覚者資料館

開館時間 / 9時～16時 入館 / 無料
休館日 / 月曜日(月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館)

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002